

町田市最終処分場住民報告会

－ 検討委員会中間報告 －

【 目 次 】

1. 町田市廃棄物最終処分場閉鎖等検討委員会の概要	1
2. 町田市最終処分場の概要	2
3. これまでの調査の内容, H19 年度調査時点の結果	3
4. 今後の進め方	5

平成 20 年 3 月 26 日（木） 19：00～21：00

町田リサイクル文化センター

町 田 市 清 掃 事 業 部

1. 町田市廃棄物最終処分場閉鎖等検討委員会の概要

1.1 目的

処分場の閉鎖^(※1)及び廃止^(※2)に当たり、周辺の環境に汚染等をもたらすことなく^(※3)、安全に閉鎖し、及び廃止するための検討を行う。

(※1)；閉鎖とは？

最終処分場がそれ以上埋立てることができなくなると廃棄物の受入を終了し、廃棄物の飛散、悪臭の発生、雨水の浸入を防ぐために厚さ50cm以上の土砂等によって開口部を覆う措置をいう。

ただし、閉鎖しても浸出水処理施設などの維持管理は継続が必要。

(※2)；廃止とは？

閉鎖後、廃掃法上の最終処分場としての規制を行う必要がない状態をいい、浸出水処理施設などの維持管理も必要がなくなる。

(※3)；「汚染等をもたらすことなく」＝「生活環境の保全上の支障が生じないよう」（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）

1.2 実施事項

- 周辺の自然環境及び生活環境に汚染等をもたらすことなく、処分場を安全に閉鎖し、及び廃止するための方策に関すること。
(具体的には、①現地調査結果・必要な調査内容の検討、②対策の必要性・閉鎖方法の検討、等)
- 上記のほか、市長が必要と認める事項

1.3 委員会の検討内容

平成19年度は、これまで4回の委員会を開催し、最終処分場内及びその周辺における現場調査方法を中心に検討しました。そして、最終処分場での浸出水（雨水と廃棄物が接触した発生する汚水）や発生ガスの調査、地質調査、地下水調査等を実施し、実態の把握に努めてまいりました。

今後、これらの調査結果を踏まえて、さらに必要な調査の検討やそれらを踏まえた今後の最終処分場の管理計画の検討等を行ってまいります。

1.4 委員会の委員（15名）

委員長	梶山 正三（学識経験者 弁護士・理学博士）
副委員長	小川 由一（下小山田町内会）
委員	函師町内会、常盤町内会、忠生4丁目町内会、桜美林台住宅自治会、もみじ台町内会、小山田桜台自治連合会、清住平自治会、小山田環境対策連絡協議会、どぜうの会、小山田ごみ問題を考える会
学識経験者	関口 鉄夫（作業部会長、長野県廃棄物問題研究会（調査研究責任者兼事務局長）） 広瀬 立成（早稲田大学理工学術院総合研究所 教授） 渋谷 謙三（環境自治システム研究所 所長）



第4回検討委員会（開催日 H20.2.12）の討議風景

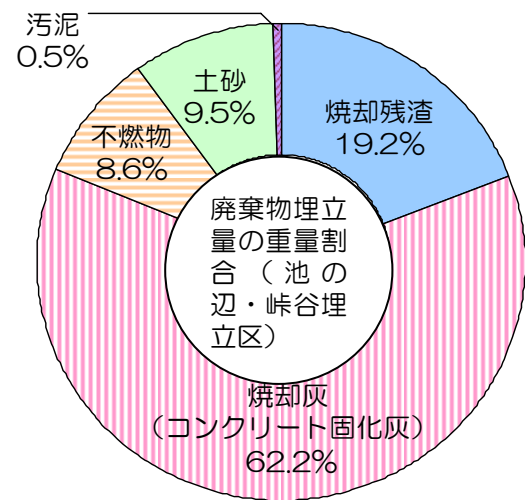
2. 町田市最終処分場の概要

① 施設概要

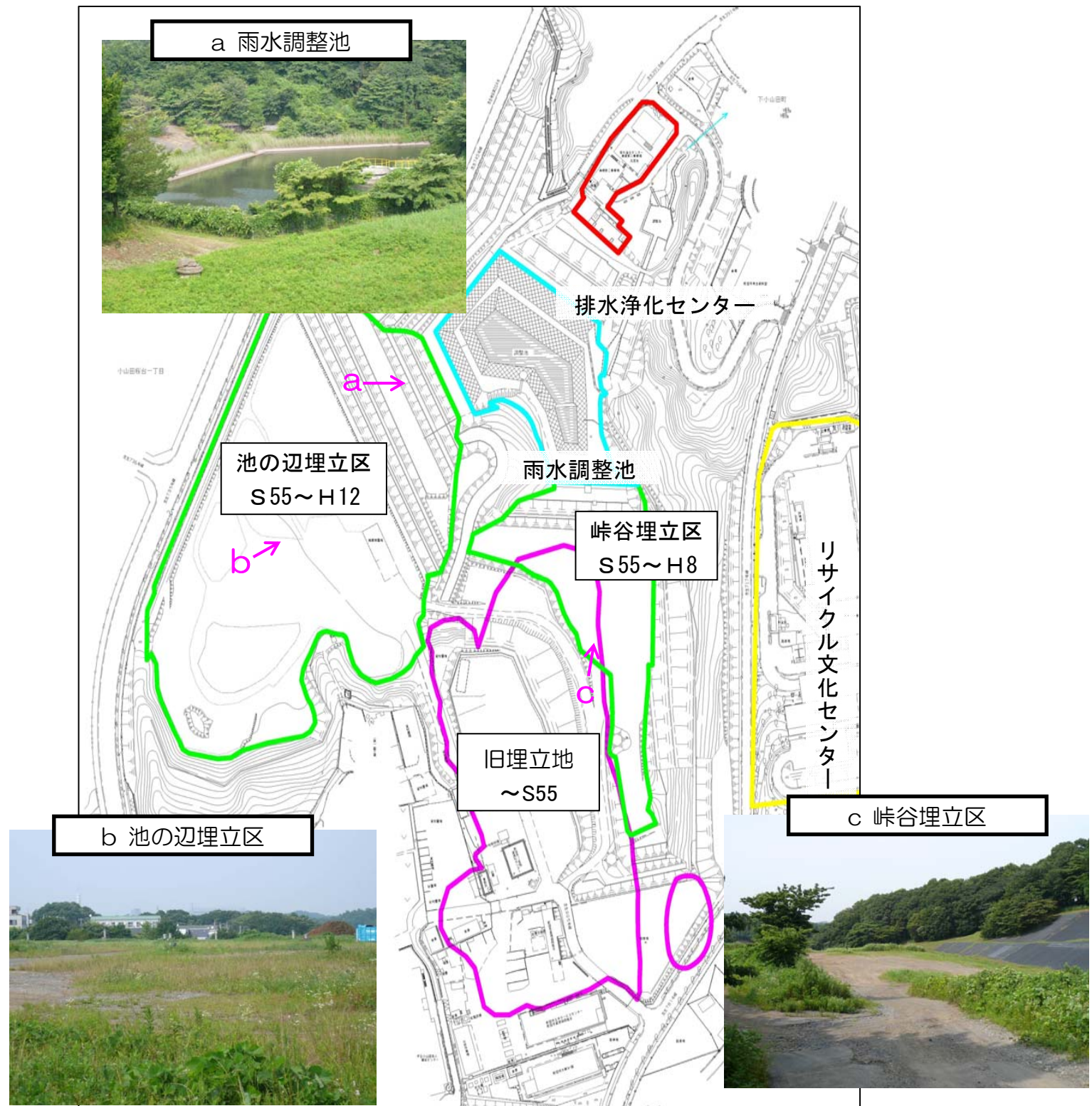
施設名	項目	規模
最終処分場	1) 用地面積	約 12.9 ha
	2) 埋立地供用面積	約 6.4 ha
	3) 埋立容量 (埋立進捗率※)	約 63.9 万 m ³ (88.7%)
	嵯谷埋立区	約 21.2 万 m ³ (66.0%)
	池の辺埋立区	約 42.7 万 m ³ (99.9%)
	4) 埋立供用期間	昭和 55 年度～ (平成 15 年度で埋立中止)
	5) 遮水構造	遮水シート(厚さ 1.5mm)あるいは関東ローム(厚さ 40cm)を敷設
	6) 雨水調整池容量	30,000 m ³
排水浄化センター	1) 処理能力	600 m ³ /日
	2) 処理方式	活性汚泥法+凝集沈殿法
	3) 竣工年度	昭和 53 年度

※ 平成 18 年度実績
出典：町田リサイクル文化センターパンフレット（町田市）等

③ 埋立廃棄物の割合



② 施設配置図



3. これまでの調査の内容, H19 年度調査時点の結果



これまでの調査の内容

	調査項目	調査位置 (H18+H19)	調査内容	H18年度 (冬季)	H19年度 (夏季)
埋立地内	①埋立廃棄物調査	7箇所	廃棄物性状分析	1回	
	②浸出水原水調査	6箇所	水質分析	1回	1回
	③埋立ガス性状調査	7箇所	ガス性状分析	1回	1回
埋立地外	①地下水調査	15箇所	地質構成, 地下水水質分析	1回	1回
	②河川水質調査	1箇所	定点連続測定 (流量, 塩素イオン, 電気伝導率)	1回	1回
	③底泥・水質調査	1箇所	雨水調整池底泥・水質分析	1回	1回
	④臭気調査	3箇所	臭気分析	1回	
その他	①試掘調査	5箇所	埋立廃棄物の目視調査 (幅2m×長5m×深2m)	1回	
	②地中温度調査	22箇所 (内7箇所, 外15箇所)	地中温度	1回	1回
	③イオン調査	26箇所 (内4箇所, 外22箇所)	水質分析	1回	1回

※埋立地外のボーリングはH18年度に6箇所, H19年度に8箇所を実施。

視点1: 埋立地内の安定化^(※1) 状況 (H19年度調査時点のまとめ)

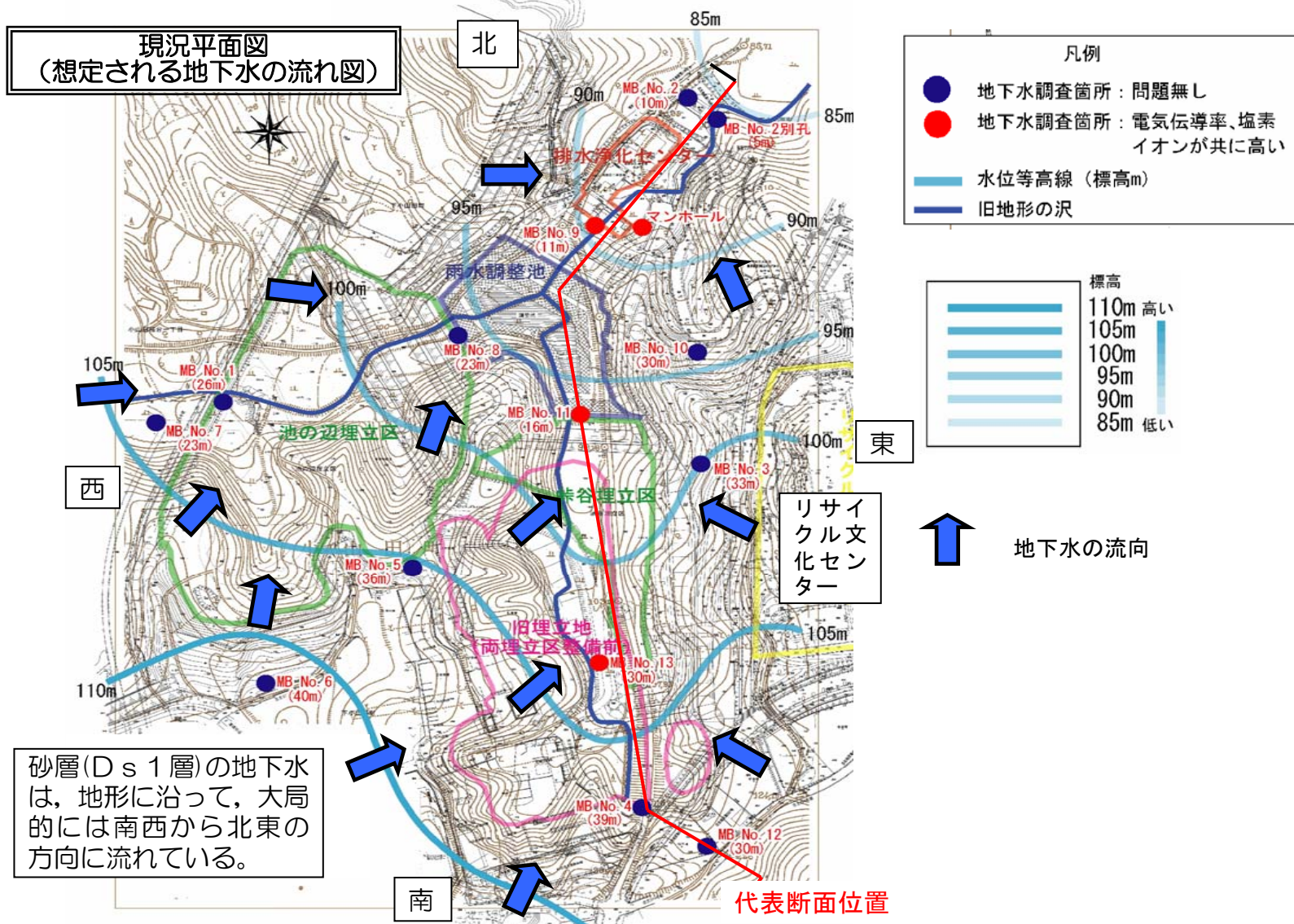
- ① 浸出水原水の放流基準, 地中温度の廃止基準を満足する程度までは安定化している。
浸出水原水は廃止基準を一部項目で満たしておらず(17項目のうち, 水素イオン濃度, 浮遊物質, 鉛, 銅, 亜鉛), 埋立地内部の発生ガスも環境基準を一部満たしていない項目がある(8項目のうち, 水銀, ベンゼン)。
- ② データのばらつき(季節変動等)が見られ, 経年的な安定化の進行は不明確。

(※1) 安定化とは?

埋立てられた分解性廃棄物は微生物の作用で分解・減容し, その他の廃棄物は物理・化学的に圧縮・分解・劣化すること。
また, 広義の意味で, 人や生態系に対して害のある顕著なガス, 水がなく, 生活環境保全上の支障が特に認められないこと。

視点2: 周辺環境への影響 (H19年度調査時点のまとめ)

- ① 地下水環境基準を超過する地点はない。
しかし, 峠谷埋立区下流の浅い地下水の電気伝導率と塩素イオン濃度は他地点に比較して高く, 廃棄物層からのしみだしは考えられる。
- ② 雨水調整池の水質は, 埋立地周辺からの流入水の影響を受けている可能性がある。また, 底泥はダイオキシン類が環境基準を超過し, 鉛の含有量も高い。



周辺地下水へ影響を与える伏流水は認められないと推察される。

- ①埋立地の堰堤及び雨水調整池を施工する際に沖積層を除去したため、**沖積層(粘土)**は上流から下流に連続していない。
- ②今回のボーリング調査では、埋立地から雨水調整池の下流に連続する伏流水は認められなかった。

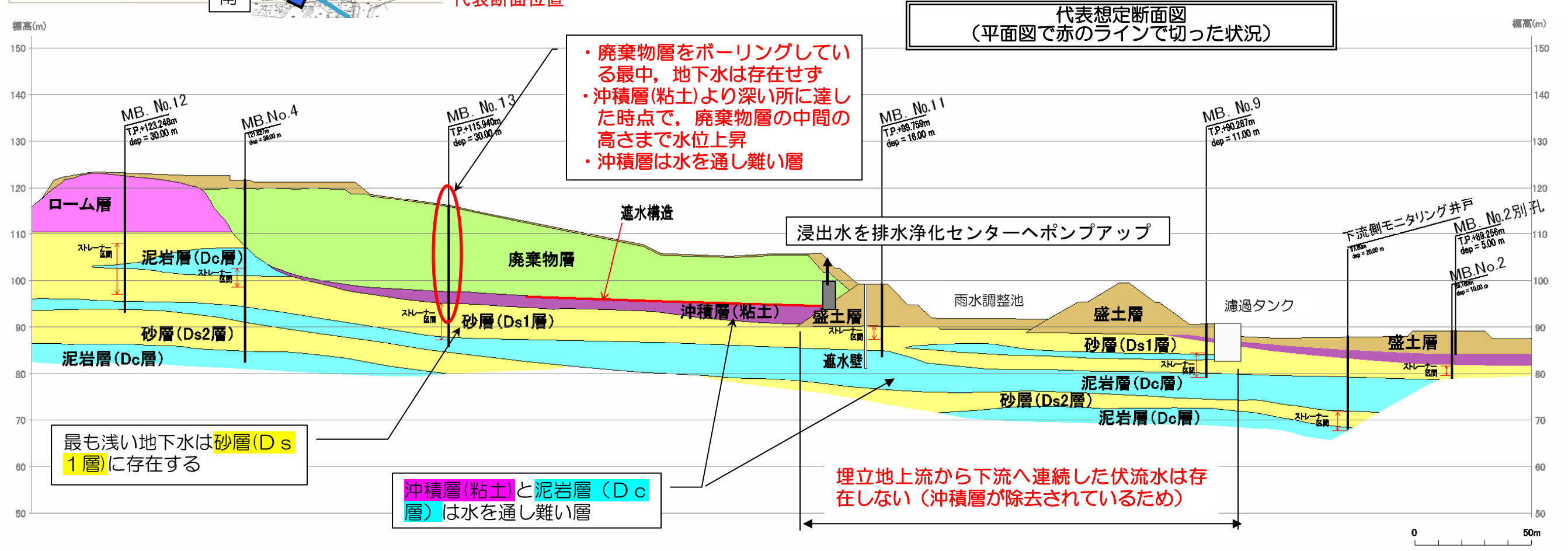
浸出水は**砂層(Ds1層)**へ浸透し難い状況であると推測される。

ただし、峠谷埋立区付近では、廃棄物層からDs1層へしみ出しにより考えられる地下水の水質の変化が認められるため、今後のモニタリングが必要である。

- ①廃棄物層の下に、水を通し難い層である**沖積層(粘土)**が存在することをMB13のボーリング結果から確認した。
- ②**砂層(Ds1層)**の水質分析結果は、ほぼ全ての地点で地下水環境基準を満足した。

ただし、峠谷埋立区付近とその下流では電気伝導率と塩素イオン濃度のみが他の地点より高い傾向がある。

砂層(Ds1層)の地下水は、地形に沿って、大局的には南西から北東の方向に流れている。



4. 今後の進め方

